

作成日 2025 年 3 月 13 日

改訂日 2026 年 3 月 16 日

安全データシート

1. 【 化学品及び会社情報 】

製品名	レンザー
供給者の会社名称	丸和バイオケミカル株式会社
住所	東京都千代田区神田須田町 2-19-23
担当部門	開発本部 登録・環境グループ
電話番号 / FAX	Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323
推奨用途	除草剤
使用上の制限	農薬登録以外の使用は不可
整理番号	24143-02

2. 【 危険有害性の要約 】

化学品の GHS 分類		
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
注意書き 【安全対策】	環境への放出を避けること。
【応急措置】	漏出物を回収すること。
【保 管】	なし
【廃 棄】	内容物/容器を承認された処理施設に廃棄すること。

3. 【 組成及び成分情報 】

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	レナシル: 3-シクロヘキシル-5,6-トリメチレンウラシル

成分及び含有量	化審法 No.	安衛法 No.	CAS No.	
<有効成分>				
レナシル	80.0%	(5)-914	—	2164-08-1
<その他>				
分散剤、鋳物質微粉等	20.0%			

4. 【 応急措置 】

吸入した場合	危険域から避難させる。 意識がない場合は、回復体勢にし、医師の指示を受ける。 症状が持続する場合は、医師/中毒情報センターに連絡する。 被災者を一人にしない。
皮膚に付着した場合	刺激があり継続する場合には医療機関で診察を受ける。 石けんと水で洗い流す。
眼に入った場合	予防措置として、水で眼を洗浄する。 コンタクトレンズをはずす。 損傷していない眼を保護する。

飲み込んだ場合	洗浄中は目を大きく開ける。 眼刺激が治まらない場合は、専門医に相談する。 気道を確保する。 牛乳やアルコール飲料を与えない。 意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。 症状が持続する場合は、医師/中毒情報センターに連絡する。 知見なし
急性症状及び遅発性症状の 最も重要な徴候症状 応急措置をする者の保護に 必要な注意事項 医師に対する特別な注意事項	吸入、摂取および皮膚と眼への接触を避ける。 症状に応じた治療を行う。 この安全データシートを担当医に見せる。 この安全データシートを医師に提示すると役立つ場合がある。
5. 【 火災時の措置 】 適切な消火剤 使ってはならない消火剤 火災時の特有の危険有害性 特有の消火方法 消火活動を行う者の特別な 保護具及び予防措置	二酸化炭素(CO ₂)、粉末消火剤、粉末、泡消火剤 棒状注水を避ける 火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止 すること。有害燃焼副産物:炭素酸化物、窒素酸化物(NOx) 汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。 火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理 する。 消火活動時には必要に応じて自給式呼吸装置を装着する。
6. 【 漏出時の措置 】 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置 環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法 及び機材	安全な場所に避難する。 こぼれたものに触れたり、歩いたりしない。 粉じんの発生を避ける。 安全に実行できる場合は、リークを停止する。 保護具を使用する。 製品を排水施設に流してはならない。 安全を確認してから、漏れやこぼれを止める。 製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に 連絡する。 回収したものの使用を避けるために、製品の容器に戻してはなら ない。 粉じんを発生させることなく、適切にラベル付けされた容器に拾い 上げて移す。 廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。
7. 【 取扱い及び保管上の注意 】 取扱い 技術的対策 安全取扱注意事項 接触回避 衛生対策	粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。 個人保護については項目8を参照する。 作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。 洗浄水は、国及び地方自治体の規制に従い処分する。 強酸化剤、強酸、強アルカリとの接触を避ける。 休憩前や終業時には手を洗う。

保管

安全な保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。
 一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。
 電気設備及び作業資材は技術安全基準に準拠していなければならない。
 乾燥した場所に保管する。
 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。
 情報なし

安全な容器包装材料

8. 【ばく露防止及び保護措置】

許容濃度等

日本産業衛生学会(2024年版)

吸入性粉じん 0.03mg/m³(シリカ)
 第1種粉じん(吸入性粉じん:0.5mg/m³、総粉じん:2mg/m³)
 詳細情報:吸入性結晶質シリカおよび吸入性粉じんは以下の捕集率 $R(d_{ae})$ で捕集された粒子の質量濃度である。
 $R(d_{ae})=0.5[1+\exp(-0.06d_{ae})][1-F(x)]$
 d_{ae} : 空気動学的粒子径(m)
 $F(x)$: 標準正規変数の累積分布関数
 $x=\ln(d_{ae}/\Gamma)/\ln(\Sigma)$ 、 \ln 自然対数、 $\Gamma=4.25\mu\text{m}$ 、 $\Sigma=1.5$
 発がん以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質。
 III. 発がん性分類の前文参照、発がん物質、「第1群」はヒトに対して発がん性があると判断できる物質である。この群に分類される物質は、疫学研究からの十分な証拠がある。
 カオリン 2mg/m³(TLV-TWA)

ACGIH(2018年版)

保護具

呼吸用保護具

適切な局所排気装置がない場合、あるいは、暴露評価によって、暴露量が推奨暴露ガイドライン以下であることが証明されない限り、呼吸用保護具を着用すること。
 フィルタータイプ:微粒子用タイプ
 粉じんおよびエアゾール形成の場合は、適合したフィルターの付いた呼吸装置を使用する。

手の保護具

材質:バリアラミネート、ブチルゴム、ニトリルゴムなどの耐薬品性手袋を着用する。
 備考:製造メーカーと相談の上、作業場所に相応しい防護手袋を着用する。

眼、顔面の保護具

純水入りの眼洗浄ボトル
 密着性の高い安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

微粒子不浸透性保護服
 作業場にある危険物質の量及び濃度に応じて、保護具を選択する。
 この製品を使用する前に、応急措置方法を検討しておく。

特別な注意事項

9. 【物理的及び化学的性質】

物理状態

固体

色

類白色

臭い

なし

融点/凝固点

融解前に分解。

沸点又は初留点及び沸騰範囲	情報なし
可燃性	この製品は GHS 分類の可燃性ではない。
爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界	情報なし
引火点	情報なし
自然発火性	約 288°C
分解温度	>270°C
pH	7.0 (25°C)
	含有量: 10g/L
動粘性率	情報なし
溶解度	水溶性: 0.003g/L 実質的に水に不溶(25°C)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	比重: この混合物に関しては得られていない。 かさ密度: 555kg/m ³
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
爆発特性	非爆発性
酸化特性	製品は酸化性ではない。

10. 【 安定性及び反応性 】

反応性	指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。
化学的安定性	指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。
危険有害反応可能性	指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。 粉じんは空気中で爆発性の混合物を生成することがある。
避けるべき条件	長時間にわたり空気または湿気に触れる。 熱、炎、火花。 粉じんの発生を避ける。
混触危険物質	強酸化剤、強酸、強アルカリ
危険有害な分解生成物	炭素酸化物、窒素酸化物(NO _x)

11. 【 有害性情報 】

急性毒性(経口)	ラット LD ₅₀ : >5000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(経皮)	ラット LD ₅₀ : >5000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(吸入:ダスト/噴霧)	ラット LC ₅₀ (4h): >4.96mg/L この物質または混合物は急性の吸入毒性はない。
皮膚腐食性/刺激性	ウサギ: 皮膚刺激なし
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	ウサギ: 眼への刺激なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 利用可能な情報に基づく限り分類できない。 皮膚感作性 モルモット: 動物実験では、皮膚の接触による感作性を示さなかった。
生殖細胞変異原性*	バクテリアまたは哺乳類培養細胞を用いた試験において遺伝子の突然変異作用は発現しなかった。
発がん性*	陰性
生殖毒性*	動物実験では繁殖力への影響はなかった。 動物実験では胎児発育への影響はなかった。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	利用可能な情報に基づく限り分類できない。

反復投与毒性*

ラット(経口、90d): 肝臓への影響
 マウス(経口、90d): 肝臓重量の増加
 イヌ(経口、90d): 肝臓への影響、膀胱への影響
 利用可能な情報に基づく限り分類できない。
 *レナシルのデータ

誤えん有害性

12. 【 環境影響情報 】

生態毒性

魚類

Oncorhynchus mykiss(ニジマス)
 LC₅₀ (96h): >2.63mg/L

甲殻類

Daphnia magna(オオミジンコ)
 EC₅₀ (48h): >3.53mg/L

藻類

Selenastrum capricornutum(緑藻)
 ErC₅₀ (72h): 0.0084mg/L

残留性/分解性*

生分解性: 易分解性ではない。
 備考: 物質/製品は環境中で適度に持続する。

生体蓄積性*

生体内蓄積の可能性が低い
 log Pow: 1.70 (25°C)

土壌中の移動性*

環境中の分布
 溶媒: 土壌
 備考: 土壌中で中程度に移動する

オゾン層への有害性

情報なし

他の有害影響

PBT および vPvB の評価結果
 この混合物には、残留性、生物濃縮性及び毒性がある(PBT) 物質は含まれていない。この混合物には、極めて高い残留性及び極めて高い生物蓄積性の(vPvB) 物質は含まれていない。
 生態系に関する追加情報
 環境の予防措置に関する、取り扱いの追加説明は製品ラベルを参照する。特記すべき生態学的影響は他にない。
 職業上の規則に反した取り扱い、処理が行われた場合は、環境に及ぼす危険性を除外して考えることはできない。長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。
 *レナシルのデータ

13. 【 廃棄上の注意 】

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

本製品を排水溝、水路、地面に流さないこと。
 薬剤または使用済み容器で池、水路、溝を汚染しないこと。
 認可された廃棄物処理業者へ委託する。
 残りの容器を空にする。
 製品入り容器と同様に処分する。
 空の容器を再使用しない。

14. 【 輸送上の注意 】

国連番号

3077

品名(国連輸送名)

環境有害物質(固体)(レナシル)

国連分類

9(有害性物質)

容器等級

III

海洋汚染物質

該当

輸送又は輸送手段に関する
特別の安全対策

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのために、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいている。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性がある。

国内規制がある場合の規制情報
応急措置指針番号

船舶安全法、航空法
171

15. 【 適用法令 】

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

農薬取締法	第 24143 号
化学物質排出把握管理促進法 (化管法)	該当なし
労働安全衛生法	第 57 条 表示対象物、第 57 条の 2 通知対象物 レナシル
毒物及び劇物取締法	該当なし
消防法	該当なし
船舶安全法	危規則第 2、3 条危険物告示別表第 1: 有害性物質
航空法	施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: その他の有害物
水質汚濁防止法	指定物質(法第 2 条 4、施行令第 3 条の 3) ジイソプロピルナフタリンスルホン酸ナトリウム(1%以上 2.5%未 満)

16. 【 SDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】

参 考 文 献: エフエムシー・ケミカルズ株式会社安全データシート

緊急連絡先: 03-5962-9731 (9 時~17 時 土日祝を除く)

公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る)

中毒 110 番 365 日 24 時間対応

	一般市民専用電話 (情報料無料)	医療機関専用有料電話 (1件2000円)
大阪	072-727-2499	072-726-9923
つくば	029-852-9999	029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報料1件につき2,000円を徴収します。

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常の実取扱いを対象としております。